

公開シンポジウム「気をつけよう！若い女性の「やせすぎ」」の開催

1. 主 催 日本学術会議 臨床医学委員会 内分泌・代謝分科会

2. 後 援（一部予定）

1. 厚生労働省
2. 日本肥満学会
3. 日本内分泌学会
4. 日本産科婦人科学会
5. メタボリックシンドローム撲滅委員会
6. 産経新聞社

3. 日 時 平成20年9月22日（月）15：00～18：00

4. 場 所 日本学術会議 講堂
（地下鉄千代田線「乃木坂駅」青山霊園方面出口徒歩1分）

5. 次 第
（開催趣旨）

「メタボリックシンドローム」が注目を集め、「太りすぎ」が健康に良くないことは、広く一般の方にも知られています。一方、若い女性には強い「やせ」志向があり、これが一因で「食行動の異常」がおこることがあります。最近、摂食障害のある方が増えていることが指摘されています。これに対し、「摂食」をコントロールする生物学的機序も明らかとされ、摂食障害の治療薬も開発されつつあります。

「やせすぎ」は骨粗鬆症、月経異常など多くの健康上の問題をはらんでいることも、小児科、産婦人科の先生方に講演していただきます。さらに、「やせすぎ」は、本人だけでなく、今から生まれてくる子供の健康にも大きな問題を起こすことも分かってきました。やせた女性からは、低出生体重児が生まれやすく、「低出生体重児」には、将来、肥満、高血圧、糖尿病などの「生活習慣病が増える」という大問題があります。この重要な問題についても解説していただきます。

本講演会は、「やせすぎ」が若い女性の健康に重大な影響があるだけでなく、次世代を担う子供たちにも大きな問題がおこりうることを一般の方々に理解していただくことを目的としています。

（プログラム）

開会の挨拶 松澤佑次（住友病院院長、日本学術会議内分泌・代謝分科会委員長）

1. 若い女性の「やせすぎ」にはどんな問題があるのか？

座長：倉智博久（山形大学医学部産婦人科教授、日本学術会議連携会員）

このテーマのねらい：倉智博久 15:05～15:10

（講演）

1) 「小さく生んで、大きく育てよう」は正しくない！（Barker 説）

低出生体重児には、将来、生活習慣病が多くおこる 15:10～15:40

佐川典正先生（三重大学医学部産婦人科教授）

2) 「やせすぎ」がひきおこす月経の異常と骨量低下

骨粗鬆症、月経異常 15:40～16:10

甲村弘子先生（大阪樟蔭女子大学人間科学部教授）

2. 若い女性に多い食行動の異常—神経性食欲不振症

座長：小川佳宏（東京医科歯科大学難病疾患研究所 分子代謝医学教授、厚生労働省 難治性疾患克服研究事業 中枢性摂食異常症調査研究班）

このテーマのねらい（厚生労働省研究班の取り組みの紹介も含めて）

小川佳宏 16:10～16:15

（講演）

1) 知ってほしい日本の摂食障害の現状 16:15～16:45

鈴木眞理先生（政策研究大学院大学教授）

2) 新しい治療薬としてのグレリン 16:45～17:15

赤水尚史先生（京都大学探索医療センター教授）

3) 骨粗鬆症・低身長などの合併症：小児科専門医の視点から 17:15～17:24

堀川玲子先生（国立成育医療センター内分泌・代謝科医長）

3. 総合討論 17:45～18:15

閉会の挨拶 寒川賢治（国立循環器病センター研究所長、日本学術会議連携会員）

6. その他

原則として事前の申込は必要ありません。当日先着順で定員300名です。

なお、メタボリックシンドローム撲滅委員会事務局（TEL 03-3275-8944）の

HP < <http://metabolic-syndrome.net/> > から事前の申し込みをすることも

できます。